

Vol.185

病院ホームページは

<http://www.mhi.co.jp/kobe/hospital/>

かけはし

理念

すべては患者様と
地域社会のために

発行責任者 病院長 佐々木 順子

腎部慢性膿皮症に対する外科手術について

先生
おたずねします

<回答者> 形成外科 医長
 栗水流(くわする) 健二

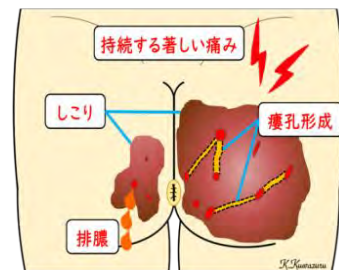


Q. 腎部慢性膿皮症(でんぶまんせいのおひしょう)はどんな病気？

A. 皮膚・皮下組織に生じ、慢性、再発性で非常に治りにくい疾患です。目詰まりを起こした毛穴に細菌が感染することを契機とし、次第に複雑な瘻孔(アリの巣の様なトンネル)を皮膚・皮下に形成していきます。化膿性汗腺炎と呼ばれることもあり、臀部の他に、そけい部、会陰部、わき、頭部にも好発します。原因として糖代謝の異常、ホルモンバランスや喫煙、長時間の坐位などが関与しているといわれています。

Q. 症状は？

A. はじめはニキビが多発するような症状ですが、進行するにつれて複雑な瘻孔を形成し、排膿、非常に強い痛みの持続、ひきつれなどの症状を起こします。非常に苦痛の大きい疾患です。臀部や会陰部に発生する場合、歩くことや座ることが困難になるなど日常生活にも支障をきたすことがあります。また、病変が広範囲に及ぶと、栄養状態の悪化や貧血を伴う場合もあります。また、皮膚がんの発生原因になる可能性があります。

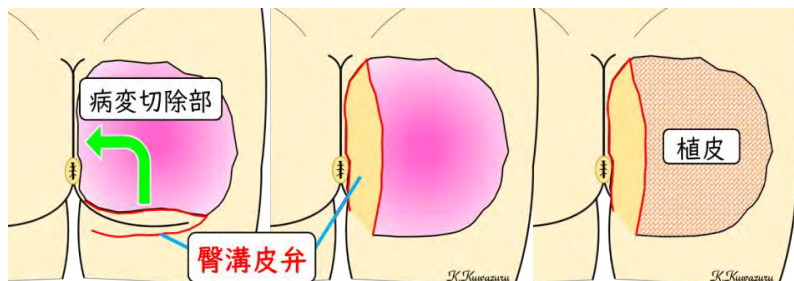


Q. 治療は？

A. 抗菌薬の内服や塗り薬などの保存的治療が選択されることもありますが、根本的な治療ではないため再発を繰り返し、次第に増悪し、病変の範囲も拡大していきます。標準的な根治的治療としては、病変の切除と皮膚移植が行われています。しかし、臀部や会陰部では、しばしば術中・術後のキズの管理が非常に難しい場合があります。特に病変が、肛門近傍に至ると、便汚染や細菌感染の頻度が高く、移植した皮膚が生着しない場合もあり、治療にとっても難渋することが問題となります。

Q. 当科での取り組み～皮膚移植に腎溝皮弁を併用した新しい術式～

A. 当科では病変が肛門近傍に及ぶような治療が難しい症例の場合、従来行われていた植皮術を実施する際に、**腎溝皮弁**(※腎溝：おしりと太もも間の溝、皮弁：皮膚・皮下組織を移動させ移植する方法)と**局所陰圧閉鎖療法**(吸引の力でキズを早く治す治療)を併用しています。この方法により従来の方で治療が困難な場合でも、良好な治療効果を得ることが可能になりました¹⁾。本疾患を疑う場合、当科外来までご相談ください。



1)栗水流 健二, 櫻井 敦, 谷口 智哉, 三谷 寛子肛門近傍の創へNPWTを用いる際の工夫～腎溝皮弁の有用性～. 創傷; 2019.in press)

形成外科受付 お問い合わせ先
078-672-2610 (外線)
863-22610 (内線)

年末年始の診療のご案内

12月28日(金)	→ 通常通り開院
12月29日(土)	→ 休診
12月30日(日)	
12月31日(月)	
1月1日(火)	
1月2日(水)	→ 午前のみ開院
1月3日(木)	
1月4日(金)	
1月5日(土)	→ 休診
1月6日(日)	
1月7日(月)以降	… 通常通り